

2003 年十勝沖地震によって生じた津波の誕生の瞬間

The first-time looking at the birth of tsunami generated by the 2003 Tokachi-oki earthquake

平田 賢治[1]; 馬場 俊孝[2]

Kenji Hirata[1]; Toshitaka Baba[2]

[1] 海洋センター; [2] IFREE, JAMSTEC

[1] JAMSTEC; [2] IFREE, JAMSTEC

昨年 9 月の十勝沖地震によって津波が発生したが、海洋科学技術センターが震源域に設置していた 2 台の海底ケーブル式水圧計 PG1 及び、PG2 によって、津波波源域の中で津波が誕生の様子を捉えることに成功した。しかし、生の観測水圧データを見ただけではその様子ははっきりしない。我々の水圧計は水晶共振方式であり温度変化に大きく影響を受けるので、温度の影響を正確に評価し、生の水圧データからその影響を差し引いて初めて津波誕生の瞬間を捉えることができた。沿岸で観測された津波は場所によって押し波、引き波が繰り返し、1 日以上も継続していたが、津波波源域で誕生したばかりの津波は押し/引きが基本的には一つずつしかなくとても単純であった。講演では、観測、データ処理、津波誕生の瞬間についてお話しする。